



先進地視察

第64回都市計画全国大会

～まほろばの都 奈良～

水戸市都市計画部 都市計画課/主事 石川 純

都市計画全国大会は、毎年、都市計画行政に携わる全国の関係者が一同に会して、時々の都市行政をめぐる課題について研究発表や意見交換を行うことを目的として、毎年、開催されています。



会場風景

平成24年度第64回大会は、10月18日(木)、19日(金)の2日間にわたり奈良県奈良市において開催されました。

■大会1日目

大会第1日目は、奈良県文化会館国際ホール等において、都市計画協会会長賞等の表彰式の後、主報告、部会、記念講演等が行われました。

○主報告

国土交通省の松井直人大臣官房技術審議官が、『都市行政をめぐる最近の動きについて』と題して、東日本大震災における国土交通省の取り組み等を、事例を交えて紹介しました。

1. 復興まちづくりについて

- ・被害現況調査(62市町村)
 - ・市街地復興パターン検討調査(43市町村)
- ⇒調査結果に基づき42市町村で復興計画を策定

2. 低炭素まちづくりについて

急激な人口減少、超高齢化社会の到来、震災を契機としたエネルギー需給の変化や地球温暖化問題への対応等を踏まえ、都市・交通の低炭素化、エネルギー利用の効率化が求められており、低炭素化の実現には、都市構造のコンパクト化が重要。

3. その他

- ・都市再生特別措置法の改正について
- ・平成25年度予算概算要求について

○部会

テーマごとに3つの部会に別れ、それぞれの先進事例・課題等に関する報告、意見交換などが行われました。各部のテーマはつぎの通りです。

第1部会『都市の集約化』

～低炭素、少子高齢社会、民間投資～

第2部会『都市公園の可能性』

～交流、観光、環境、防災など～

第3部会『地域産業や観光を強くする都市交通』

このうち、第2部会の報告では奈良県、横浜市、各務原市から報告がありました。

<報告1>奈良県

『「奈良公園基本戦略」の策定～世界に誇れる奈良公園を目指して～』

奈良県では、奈良公園の魅力をもっと高めるために、平成24年2月「奈良公園基本戦略」を策定しており、その重点的政策では、公園管理、歴史文化資源の保存に加え、交通の円滑化、トイレ等の設備充実、イベント企画等のソフト事業についてもふれており、その全ての政策が来訪者へのホスピタリティの向上につながるという点で、日本を代表する観光地ならではの印象を受けました。

奈良公園基本戦略の基本方針

目的 一人でも多くの方に奈良公園へ訪れてもらうため、奈良公園の抱える課題を解決し、奈良公園を名実ともに「世界に誇れる公園」にしていくことを目指すものとして、基本的な考え方や今後の方向性、重点的な取組を整理する。

基本方針 県がトータルマネジメントを行い、奈良公園の価値を積極的に維持し、さらなる魅力の向上や魅力の創出に努める。

基本方針の推進に向けたPRUS

- 維持 ① 価値を守る
- 利活用 ② 魅力を活かす
- 取組体制 ③ 県が主体的に取り組む

○対象エリア
奈良公園周辺一帯(右図参照)

○対象範囲
JR奈良駅から東側で、南は高麗町と奈良町を含み、北側は東大寺転輪門(正倉院西側)付近まで

○施策実施の基本スタンス
・本基本戦略で掲げる具体的な施策・事業は、各ゾーンの資源への影響について十分に検証を行い、できる限り影響を小さくして実施するものとする

「奈良公園基本戦略」

<報告2>神奈川県横浜市

『横浜都心部における公園を活用した魅力づくり』

横浜山手地区のアメリカ山公園では、立体都市公園制度を活用して、みなとみらい線・元町中華街駅上部を増築、エレベーター、エスカレーターを公園施設として整備して、駅改札口から屋上庭園へのアクセスを容易にしています。

また、山手地区には、魅力的な西洋館が複数残っており、これらを管理している(財)横浜市緑の協会では、西洋館の雰囲気を活かしたイベントを開催し、好評を博しています。

さらに、山下公園内のレストハウスのリニューアルによりオープンした「ハッピーローソン山下公園店」は、来場者への新たなサービスを提供することにより、利便性の向上や更なる魅力を創出し、また、遊具の設置や子ども向けの商品を充実することにより、ファミリー層からのリアクションに期待できます。

管理許可使用料の公園管理費への充当は、今後の都市公園の経営という観点では重要な要素であると感じました。

<報告3>岐阜県各務原市

『市民とつくる「公園都市(パークシティ)」に実現に向けて』

パークシティを明確な都市ビジョンとして掲げる各務原市は、「水と緑の回廊計画」策定後、環境を重視した良好な住環境の整備を推進しています。計画推進の原動力となっているのは、積極的な市民の参加です。その特徴的な活動のひとつとして、パークレンジャー制度が挙げられます。

パークレンジャーとは市民主体のボランティアグループで、清掃活動、植栽、マナー啓発等、自主的に計画を立て活動している市民が2,000人以上いるとのこと。市民に広く愛される公園の実現には、このような市民協働の活動が何よりも必要であると改めて思いました。

○記念講演

奈良県立図書館情報館の千田稔館長から、『歴史文化と都市計画』と題して、奈良県の歴史、文化を活かした都市計画のあり方や、景観行政についてのお話がありました。

「良好な景観とは、人間の思考によって左右されるものであり、万人に共通する美観は存在しない」という指摘や、ピンポイントの景観行政の脱却を図る必要性を強調するなど、大変興味深い講演でした。

■大会2日目

2日目は、3班(西、南、東コース)に分かれての現地視察を行いました。私が参加した西コース(大和郡山市、斑鳩町、生駒方面)を中心にご紹介いたします。

○奈良市『JR奈良駅周辺』

周辺交通の円滑化、市街地の一体化を図るため平成9年度から連続立体交差事業が行われています。新しい駅舎の完成に伴い、旧駅舎は市の総合案内所として活用されています。



奈良市総合案内所

○大和郡山市『街路事業蘭町線・外堀緑地』

蘭町線は、城下町を南北に貫く都市計画道路であり、「歴史文化の香るみち」として照明灯、カラー舗装、植栽が採用され、城下町のまちなみにふさわしく整備されていました。また、郡山城跡の外堀を歴史空間として活用し、一部公園として整備することで、城下町大和郡山のイメージを具現化しています。



外堀緑地

○斑鳩町『法隆寺門前線』

斑鳩町の都市計画道路法隆寺門前線の整備は事業期間36年を経て、平成18年に供用開始しています。世界文化遺産法隆寺の門前にふさわしいゆとりあるつくりになっており、多くの観光客で賑わっていました。



法隆寺門前線

その他、南コース(五條市、明日香村、橿原市)や東コース(奈良市、桜川市、宇陀市)においても、地元市町村等の担当職員より詳細な解説があり、3班とも中身の濃い現地調査が行われました。



五條新町(重伝建 五條市)
中央の栗山家住宅(重文)
は、建築年代の判る民家で
は日本最古(1607)



室生山上公園(宇陀市)
地すべり対策事業の跡地
に整備された芸術的空間
(特定地区公園)

貴重な歴史文化資源に恵まれ、多くの観光客が訪れる奈良県。その魅力を保ちつつ、多様化する住民ニーズや都市計画上の様々な課題に取り組む状況を窺い知ることが出来、今大会への参加は大変有意義なものとなりました。

来年度の第65回大会は水戸市で行われる予定です。多くの方にご参加頂き、茨城の魅力をお伝えするとともに、都市計画行政担当者にとって有益な大会となるよう、努めたいと思います。